

笑顔いっぱい笑いの絶えない園に

いわさき認定こども園園長
及川 りつ子さん



4月1日、市内では初の幼保連携型保育施設、いわさき認定こども園が開園。市立岩崎保育園と市立岩崎幼稚園が一つになり、新しく生まれ変わりました。幼稚園と保育所の利点を生かしながら、一体的な運営を行う施設です。運営は社会福祉法人平和会(金澤重俊理事長が担います。ゼロからのスタートとなるこども園の初代園長を務めるのは、前おにやなぎ保育園長の及川りつ子さん。開園までの間、保護者や地域の皆さん



開園式でのくす玉割り。保育園年長のくじら組のお友達が代表で割りました

と何度も話し合いを重ねてきたそうです。「地元の皆さんが大変関心を持ってくださる。地域に根ざした園として、皆さんと一緒に一歩一歩進んでいきたい」

本年度は83人の子どもたちが入園。年齢別にクラスが分けられ、保育園児と幼稚園児が共に一つの教室で過ごします。「一人ひとりがダイヤの原石。何カラットにでも輝いてほしい」と期待を寄せます。保育時間外でも園児を保育できるよう、幼稚園の預かり制度を導入。仕事と育児を頑張っているお母さんや家族を支援したいという思いから、午後2時から4時の間を無料としました。

り込み、園外の安全も自ら確認する及川園長。幼稚園、保育園両方の勤務経験を生かし、後輩への指導にも当たっています。

「子どもはもちろん、保護者の皆さんともよい思い出づくりをしていきたい。子どもたちのびのびと健やかに育ってほしい。わたしたち職員も安全な保育を提供するよう努めます。前進あるのみ！」

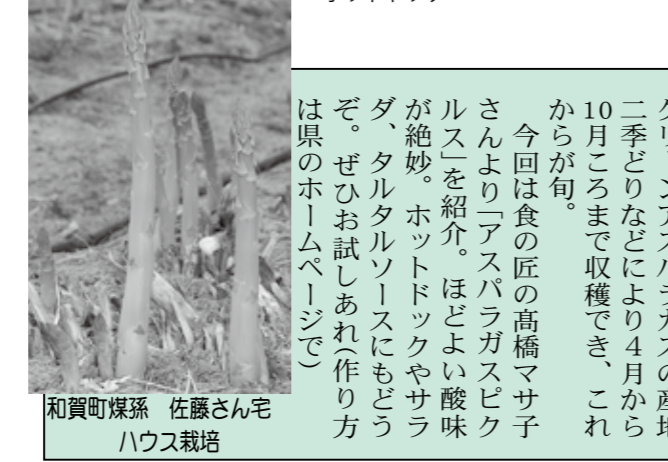
岩崎保育園、幼稚園の長きにわたる伝統を引き継ぎ、新しい歴史がスタートしました。

きたかみ物産館



食の匠 高橋マサ子さん (和賀町煤孫)

北上の豊かな土で育ったグリーンアスパラガス



和賀町煤孫 佐藤さん宅ハウス栽培

まろやかなうまみが凝縮

北上市は、県内でも有数のグリーンアスパラガスの産地。二季どりなどにより4月から10月ころまで収穫でき、これからは旬。

今回は食の匠の高橋マサ子さんより「アスパラガスピクルス」を紹介。ほどよい酸味が絶妙。ホットドックやサラダ、タルタルソースにもどうぞ。ぜひお試しあれ(作り方は県のホームページで)

話題の本
中央図書館 ☎ 63-3359
江釣子図書館 ☎ 77-2215
和賀図書館 ☎ 72-2322

木のなまえノート	いわさ ゆうこ
うらめしや	星 新一
プリンセスと魔法のキス	赤坂 行雄
小学生になる日	北見 葉胡
おらんうーたんのおうち	岩合 日出子
姑の言い分嫁の言い分	今井 美沙子
溪流釣り	我妻 徳雄
天空の陣風	宮本 昌孝
記憶の海	松田 奈月
平成の名水100選	主婦の友社

《4月の新着本から》

『文科系部活動アイデアガイド合唱部』
秋山 浩子 作
汐文社 出版
合唱について知っておきたい基礎知識や、よい声で歌うための基本練習などをイラストとともにわかりやすく解説した本

『リンゴの絆』
木村 秋則 著
主婦と生活社 出版
無農薬・無肥料の「奇跡のリンゴ」を作った偉業の陰には「友情の絆」があった。「奇跡のリンゴ」にまつわる感動秘話

国際交流ルーム発

ハロー! まいぶんんど ⑫ 「キルギスってどんな国?!」参加者募集

キルギスを世界地図で調べると、東に中国天山山脈、西にウズベキスタン、南にタジキスタン、北にカザフスタンがあります。先ごろ野党が暫定政権樹立を表明したと報道されたので、ご存知の人もいらっしゃるでしょう。今回の「どんな国?!シリーズ」は、キルギス出身で、当ルーム外国人ボランティアのジャンルさんからキルギス料理を習い、文化や歴史を紹介していただきます。



当ルームのイベントでクルージングを初体験したジャンルさん

- と き：5月8日(土)午前11時
 - ところ：生涯学習センター調理室
 - 参加料：500円(食材費)
 - 定 員：小学生以上30人(託児希望者は要相談)
 - 申し込み：5月1日(土)までに同ルームへ
- 皆さんのご参加をお待ちしています。また、当日は本年度のボランティア登録も受け付けます(年間登録料500円)。

国際交流ルーム

電話・ファクス：63-4497
電子メール：kiah@kitakami.ne.jp
おでんせプラザぐろーぶ3階 生涯学習センター内
開館日：毎週月-土曜日 午後1時-7時
休館日：日曜・祝日、第3水曜日、年末年始

散歩道 117



ロウバイ 蠟梅は咲いていた

「市長!広報の『散歩道』読んでください、ロウバイは北限じゃないみたいよ。市内で咲いているらしいよ」と友人から電話があり、週末に早速案内してくれた。

お庭の種々の草木の中心で30年以上前に、結婚記念樹として植栽されたという樹木が、たくさんの黄色い花を咲かせていた。見ごろは少し過ぎていたが、まさしく市内で初めて見るロウバイの花であった。

「北限ではなかったね。」

感心して周りに目を向けると春先を告げる福寿草や早春には珍しい美しい花々が咲いて庭を彩っていた。

ある多忙な偉人が訪れた数々の旅先での記録日記に「気を付けて見れば至る所に自然のやさしい瞳は慰めと励ましを光を漂わせて、

あたたく我々を見つめている」と記述している。

その土地での草花を目にしたとき、生まれ故郷に思いが降り、都会での喧騒を忘れさせ気持ちが癒されたのである。

この家のご主人の丹精込めた庭づくりの気持ちが伝わったような気がして感心した。

なぜにロウバイを植えたのであるのか?北限と承知してチャレンジしたのでしようか?どんな手入れを施したのであろうか?お聞きしたかったが昨年ご逝去なさったという。残念に思った。

「お茶をどうぞ」とお誘いを受けた。突然の無遠慮な訪問者のわたしたちは、来年の見ごろの訪問をお願いして、説明してくださいました娘さんとかわい笑顔でロウバイと手を振る坊やにさよならした。

展勝地の桜も開花間近の陽光がまぶしいさわやか休日のひとときの恵みに、うれしさの余韻が続く帰路であった。